

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(市町総括表)  
【単独事業】

市町名	栃木市
-----	-----

(単位:円)

No.	単位事業名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	合計
1	渡良瀬バルーンレース 開催事業	総事業費	5,652,276	5,436,803	5,420,121		16,509,200
	うち市町支出額	4,300,000	4,000,000	4,000,000			12,300,000
	うち県交付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000			3,000,000
2	渡良瀬遊水地フェスティ バル誘客促進事業	総事業費			3,885,502		3,885,502
	うち市町支出額				2,732,000		2,732,000
	うち県交付金				1,350,000		1,350,000
3	高校生社会参画促進 事業	総事業費			105,200	125,000	230,200
	うち市町支出額				100,000	100,000	200,000
	うち県交付金				50,000	50,000	100,000
4		総事業費					0
	うち市町支出額						0
	うち県交付金						0
5		総事業費					0
	うち市町支出額						0
	うち県交付金						0
6		総事業費					0
	うち市町支出額						0
	うち県交付金						0
7		総事業費					0
	うち市町支出額						0
	うち県交付金						0
8		総事業費					0
	うち市町支出額						0
	うち県交付金						0
9		総事業費					0
	うち市町支出額						0
	うち県交付金						0
10		総事業費					0
	うち市町支出額						0
	うち県交付金						0
市町計	総事業費	0	5,652,276	5,436,803	9,410,823	125,000	20,624,902
	うち市町支出額	0	4,300,000	4,000,000	6,832,000	100,000	15,232,000
	うち県交付金	0	1,000,000	1,000,000	2,400,000	50,000	4,450,000

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名

栃木市

事業名

渡良瀬バルーンレース開催事業

事業主体の名称

渡良瀬バルーンレース実行委員会

代表者の名称

実行委員長 神島 馨

事業主体の所在

〒323-1192 栃木県栃木市藤岡町藤岡1022-5

事業主体の概要

団体の目的: 渡良瀬遊水地において熱気球大会を開催し、スカイスポーツの普及及び啓蒙を図り、もって地域振興に寄与すること  
設立年月日: 平成23年1月17日  
構成員等: 一般社団法人栃木市熱気球クラブ、藤岡町商工会、一般社団法人栃木市観光協会藤岡支部、下野農協協同組合、一般財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団、特定非営利法人熱気球運営機構、栃木市、栃木市藤岡地区体育協会、足利銀行藤岡支店、栃木信用金庫藤岡支店

当該事業に係る地域の現状と課題

「渡良瀬バルーンレース」は、2000年より開催し、当初より実行委員会を組織して、行政主体ではなく地元住民や競技団体の意見を反映できる市民協働のイベントとして開催している。渡良瀬遊水地は3,300haあり、本州最大のヨシ原でその広大な立地特性から以前からスカイスポーツ、ウォータースポーツが盛んな場所で、地元栃木市に熱気球クラブやスカイダイビングのNPO法人などがあり、日常的に親しまれている。しかし、広大な土地や貯水池などの自然環境や地域資源を活かしているとは言えず、利用者や観光客のニーズを満たすことができていない。今後は本市への新しい人の流れを作るために、ラムサール条約の基本理念である環境保護と、地域資源の利活用の両面を、一般の市民および市外、県外、世界の方にPRし、ルールとマナーを守って今ある環境を未来につなげるための取り組みが必要である。県内外から新規の観光客の促進を図り、自然環境の保護と、これまで行われてきた広大な遊水地で特色のあるレジャースポーツの利活用を強化、両立し、いかに地域住民、イベント参加者、観光客に対して環境保全の周知と遊水地の魅力のPRをできるかが観光客入込数を増加させるための課題である。

事業目的

渡良瀬遊水地及び周辺で日常的に親しまれているレジャースポーツの熱気球による、栃木市の地域振興、熱気球人口の増加及び熱気球競技に携わる選手等の技術育成を行う目的で始まったイベントである。来訪者に対し、渡良瀬遊水地および栃木市のさらなるPRを行い、本イベントを市の玄関口とし、本市の見どころを紹介し、交流人口の増加や滞在時間が増えることによる宿泊客増加による地域の活性化を目指すとともに、熱気球の魅力を広め熱気球に携わる者の栃木市への定着を図る。

事業概要

今年度は引き続き、小学生向け熱気球教室を会場周辺の小学校を対象に開催し、晋段、自宅等から飛行している姿が見える熱気球がどのような仕組みになっているか、どのような原理で飛行するかミニ熱気球を作製飛ばすことで、熱気球をもっと身近に感じてもらいイベントへの興味を深めてもらうとともに市内中心部の小学校でも開催し、熱気球及びバルーンレースが自分達に身近な存在であることをPRした。また、本市で所有するハート形の熱気球(ハートランド号)及びいしご形の熱気球(レッドベリー号)を活用し、市中部から遊水地へのデモフライト及びバルーンランナーに合わせたPRイベントを実施し、大会の開催機運の醸成をした。栃木県東京事務所を通じての告知、熱気球グランプリのシリーズ戦を開催する他の4自治体と合同の記者説明会でのPR活動及び大会会場への案内の充実により県外とりわけ埼玉県からの来訪者が増加した。会場内の案内表示の充実、休憩所の新規設置により来場者の長時間の滞在を促した。夜間に行われるバルーン・イルミネーションの際、会場内照明及び夜間ライトアップを行い暗がりやを減らすことで会場内の通路等の安全・安心を確保し、さらなるホスピタリティの向上を図った。  
【時期】平成31年4月5日(金)、6日(土)、7日(日)  
【会場】藤岡渡良瀬遊水地、渡良瀬遊水地内及びその周辺  
【主な内容】①小学生向け熱気球教室(告知事業)・・・(熱気球の原理を学んだり、ミニ熱気球を作り実際に飛ばしてみる体験を通して競技及び大会の魅力を感じる教室)  
②デモフライト及びバルーンランナーイベント(告知事業)・・・(栃木市所有のいしご形熱気球のレッドベリー号とハート形熱気球のハートランド号を用い市中部から会場へある渡良瀬遊水地へデモフライトをすることで栃木市は熱気球が身近であることを伝える企画、ハート形熱気球のハートランド号とバルーンランナーのイメージであるハートをかけ、参加者にハートの下で記念撮影してもらい、熱気球の魅力やイベントの周知を図る企画)  
③熱気球ホダグランプリ第1戦栃木市・渡良瀬バルーンレース大会・・・(国内のトップ選手たちによる熱気球の大会:今年より栃木市をよりアピールするために大会名に栃木市を追加)  
④バルーン・イルミネーション・打上花火・・・(夜桜と共に感じる熱気球ライトアップと打上花火のコラボレーションによるプログラム)  
⑤マイクロライトプレーン展示、紙飛行機体験教室、モーターパラグライダーデモンストレーション、スカイダイビングデモンストレーション・・・(晋段、前進で見ることでできない機体を実際に触ったりしたり、紙飛行機を作り飛ばす体験、生のスカイスポーツを間近で見る体験)  
⑥熱気球教室、熱気球係留搭乗体験・・・(広大な渡良瀬遊水地で行われる熱気球競技のルールを学んだり、体感する体験)  
⑦同時開催:さくら祭り・・・(日本でも唯一、さくらと共に観覧できる大会であるため競技の間、来訪者を追感させないため、特設ステージでの歌や踊りの披露及び地元グルメ等の販売)  
⑧渡良瀬遊水地及び栃木市PR・・・(渡良瀬遊水地の歴史や自然環境のPR紹介および、栃木市全体の観光地多所の紹介)  
年間を通して実施されているレジャースポーツは、今回のイベント開催に限らず、今年度は台風の影響で渡良瀬遊水地内での夏の渡良瀬遊水地フェスティバル、11月のウォーキング大会など中止になったイベントもあったが、新たに市内他地域で開催される市主催のイベントや埼玉県加須市での渡良瀬遊水地まつりinkAZOや県を越えた近隣自治体との合同イベントにて各種の利用団体および一般参加者に本イベント及び熱気球競技の周知に努めた。翌年度以降も「栃木市PRの玄関口」を継続しながら、栃木市の宝である渡良瀬遊水地で特色のあるレジャースポーツに力を入れて、新しい観光客の増加に努め事業の拡大を図る。  
渡良瀬遊水地は地域特性として4県4市2町にまたがり、もともと市外、県外からの来訪者が多いが、広報活動においては、各種のレジャースポーツを楽しむ団体の方々や一般の来訪者へ市の広報の他に、タウン誌やラジオ、HP、facebook、チラシ、ポスター等で周知を行い、県内外へのさらなる広域的なPRを行っている。

事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI

【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」  
【具体的施策】交流人口の増加/観光資源の魅力向上と有効活用  
【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数 H26:365万人→H31:380万人  
平成27年:3,892,192人 平成28年:3,863,706人 平成29年:3,982,854人 平成30年:3,944,016人

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	平成29年度	平成30年度	令和1年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①小学生向け熱気球教室(告知事業) ②ホダグランプリ第1戦渡良瀬バルーンレース大会開催 ③バルーン・イルミネーション・打上花火 ④マイクロライトプレーン展示、ペーパーパラグライダー体験教室、モーターパラグライダーデモンストレーション ⑤熱気球教室、熱気球係留搭乗体験 ⑥同時開催:さくら祭り ⑦渡良瀬遊水地及び栃木市PR	①小学生向け熱気球教室(告知事業) ②バルーンランナーイベント(告知事業) ③熱気球グランプリ第1戦渡良瀬バルーンレース大会開催 ④バルーン・イルミネーション・打上花火 ⑤マイクロライトプレーン展示、ペーパーパラグライダー体験教室、モーターパラグライダーデモンストレーション ⑥熱気球教室、熱気球係留搭乗体験 ⑦同時開催:さくら祭り ⑧渡良瀬遊水地及び栃木市PR	①小学生向け熱気球教室(告知事業) ②デモフライト及びバルーンランナーイベント(告知事業) ③熱気球ホダグランプリ第1戦栃木市・渡良瀬バルーンレース大会開催 ④バルーン・イルミネーション・打上花火 ⑤マイクロライトプレーン展示、紙飛行機体験教室、モーターパラグライダーデモンストレーション、スカイダイビングデモンストレーション ⑥熱気球教室、熱気球係留搭乗体験 ⑦同時開催:さくら祭り ⑧渡良瀬遊水地及び栃木市PR		
事業費	5,652,276	5,436,803	5,420,121	16,509,200	5,451,000
市町支出金(ソフト事業分)	4,300,000	4,000,000	4,000,000	12,300,000	4,000,000
うち県交付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	
市町支出金(ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	0
その他自主財源等	1,352,276	1,436,803	1,420,121	4,209,200	1,451,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	産業振興部 企画産業振興課 商工観光係
担当者名	小野 昌久
電話	0282-62-0907
FAX	0282-62-0918
E-mail	f-sangyou04@city.tochigi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	栃木市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	渡良瀬バルーンレース開催事業	
対象年度	1	年度

1 収入の部

科目	精算額	備考
栃木市負担金	4,000,000	市負担金
協賛金	581,000	公式プログラム広告協賛金(25社、¥360,000) 打上花火協賛金(24件、¥221,000(法人・個人含む))
繰越金	810,115	前年度繰越金
雑収入	29,008	預金利息、寝具レンタル料
計	5,420,121	

2 支出の部

科目	精算額	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		市	町		
報償費	134,184	94,184	0	40,000	告知事業熱気球教室講師謝礼 30,000 大会MC謝礼 70,000 大会表彰記念品代 34,184
旅費	7,380	7,380	0	0	記者説明会等参加旅費 5,280 本田技研工業訪問旅費 2,100
交際費	387,347	196,526	0	190,821	式典飲食費 246,167 選手、スタッフ朝食サービス費 141,180
消耗品費	76,228	76,228	0	0	会場設営用消耗品 8,720 大会運営用消耗品 41,499 事務用消耗品 26,009
燃料費	0	0	0	0	
食糧費	56,604	0	0	56,604	告知事業スタッフ昼食代 49,631 告知事業用飲食物代 5,420 接待用お茶代 1,553
印刷製本費	179,496	179,496	0	0	告知ポスター・チラシ印刷 73,008 直前チラシ印刷 106,488
通信運搬費	91,436	91,436	0	0	各種郵送料 53,497 大会臨時携帯電話使用料 8,294 競技本部ネット回線使用料 29,645
手数料	99,429	99,429	0	0	煙火消費申請手数料 7,900 仮設トイレ取り手数料 27,000 直前チラシ折込手数料 64,529
委託料	3,827,997	3,246,997	1,000,000	581,000	公式プログラム複製委託 360,854 会場設営委託 1,709,424 各種作業委託(シルバー人材) 122,133 会場警備及び駐車場誘導委託 678,672 花火打上委託 650,540 大会看板複製委託 2,484 告知事業委託 150,000 大会のぼり旗作成委託 75,000 大会告知バナー作成委託 78,880
使用料及び賃借料	37,324	8,324	0	29,000	貸布団代 35,324 ガスコンロレンタル 2,000
負担金、補助及び交付金	0	0	0	0	
次年度繰越金	522,696	0	0	522,696	
計	5,420,121	4,000,000	1,000,000	1,420,121	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	渡良瀬遊水地フェスティバル誘客促進事業
事業主体の名称	渡良瀬遊水地フェスティバル実行委員会
代表者の名称	実行委員長 柿沼章
事業主体の所在	〒323-1104 栃木県栃木市藤岡町藤岡1788
事業主体の概要	設立年月日:平成27年6月12日設立 構成員:全日本実業団自転車競技連盟(JBCF)、宇都宮ブリッツェン、特定非営利活動法人スカイダイブ藤岡、一般社団法人栃木市熱気球クラブ、公益社団法人日本グライダークラブ、足利マイクロフライトクラブ、渡良瀬カヌークラブ、栃木県セーリング連盟、ハートランドまちづくり隊、栃木県ボート協会、(有)エムスタイル 地元栃木市に熱気球・カヌー等のクラブやスカイダイビングのNPO法人があり、一部の市民にはスカイスポーツやウォータースポーツが日常的に親しまれている。こうした特性を活かし、平成24年より渡良瀬遊水地及びレジャー・スポーツのさらなるPRを目的に「渡良瀬遊水地フェスティバル」を開催している。これまで、抽選会や景品付きのスタンプラリーを実施し、スポーツに関心の薄い方にも渡良瀬遊水地への来場を促してきた。また、平成30年度からは、小さな子供でも自転車関連のスポーツを楽しめるようキックバイク体験を取り入れ、関口を広げている。 一方で、当イベントにおいてアンケート調査を実施したところ、栃木市外からの来場者が72%という結果が表れ、地元住民に対するPR不足や、また、午後のイベントが少ないという課題が挙げられた。さらに、見晴らしがよく車両の通行がない谷中湖周遊道路の特性上、日常利用時には、スピードの出しすぎによる自転車事故も起きており、他のレジャー・スポーツを含め、この渡良瀬遊水地フェスティバルを通してルール・マナーの啓発に努めている。
当該事業に係る地域の現状と課題	
事業目的	渡良瀬遊水地及び周辺で日常的に親しまれているレジャー・スポーツの体験機会を来訪者へ提供する。また、渡良瀬遊水地および栃木市のさらなるPRを行い、交流人口の増加による地域の活性化を目指す。
事業概要	渡良瀬遊水地の地域資源であり、湿地の代表的な存在である「ヨシ」の利活用体験により、環境保護意識を高めてもらうとともに、ボランティアガイドによる渡良瀬遊水地の見どころ案内を行い、治水や利水、遊水地の歴史や文化に対して理解を深めてもらう。また、遊水地で日常的に行われているレジャー・スポーツを一堂に介し、見るだけでなく、体験できるプログラムを充実させることでルールとマナーを一般の方にも学んでもらい、県内外から新たな観光の促進を目指す。 【時期】令和元年7月28日(日) 一台風6号の接近が見込まれたことや谷中湖の水位が上昇したことにより中止 【会場】渡良瀬遊水地内及びその周辺 【主な内容】 ①JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ開催…(プロの団体が参戦するロードバイクの大会) ②熱気球教室・スカイダイビング・グライダー・Eポート・ボート・キックバイクの体験…(広大な渡良瀬遊水地で行われているレジャー・スポーツの体験) ③ウルトラライトプレーン・ウインドサーフィンの展示…(各種スポーツで使用する乗り物の展示) ④カヌー・ヨットのデモンストレーション…(各種スポーツの演説) ⑤ミニよし作り体験…(地域資源であるヨシの活用と体験) ⑥ガイドクラブによる遊水地の見どころ案内…(ボランティアによる遊水地ミニツアー) ⑦スタンプラリーの実施…(遊水地及びその周辺に関するアンケートを実施。参加者に栃木市特産品を配布) ⑧渡良瀬遊水地及び栃木市PR…(渡良瀬遊水地の歴史や自然環境のパネル紹介および、市の特産品紹介) 【誘客促進に向けた本年度新たに実施を予定していた取り組み】 ①体験イベント午後の部を充実…(午後のイベントが少ないというアンケート結果に対応し、ボート・Eポート・スタンプラリーにそれぞれ午後の部を追加した。) ②タンデム自転車体験プールの設置…(視覚に障がいのある方でも自転車を楽しめる体験プールを設け、支援団体への周知を行った。) ③ガイドによる自転車での遊水地ミニツアーの実施…(渡良瀬遊水地の案内を効果的に行うとともに、参加者にサイクリングを楽しんでもらうコーナーを追加した。) ④お魚触れ合いコーナーの設置…(地元産魚と連携し、渡良瀬遊水地周辺に生息している魚の観察及び触ることが可能なプールの設置した。) ⑤後援団体にメディアを追加…(エフエム栃木・栃木ケーブルテレビ・(株)とちぎテレビ・NHK宇都宮放送局・朝日新聞宇都宮支局・読売新聞宇都宮支局・東洋新聞・毎日新聞宇都宮支局・産経新聞宇都宮支局・(株)茨城新聞社・(株)上毛新聞社・(株)栃木放送を新たに後援団体に追加し、メディアへの露出を増やすことで市内外に効果的にPRし、来場者増を目指す。)
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」 【具体的施策】交流人口の増加/観光資源の魅力向上と有効活用 【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数:H26年間395万人→H31年間380万人【H30実績394万人】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	支援期間の事業費計	支援期間の翌年度
事業内容	①JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ開催 ②熱気球教室、スカイダイビング、グライダー、Eポート、ボート、キックバイク、タンデム自転車体験 ③ウルトラライトプレーン、ウインドサーフィンの展示 ④カヌー、ヨットの展示、デモンストレーション ⑤ミニよし作り体験 ⑥ガイドクラブによる遊水地の見どころ案内 ⑦スタンプラリー ⑧渡良瀬遊水地及び栃木市PR				①JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ開催 ②熱気球教室、スカイダイビング、グライダー、Eポート、ボート、キックバイク、タンデム自転車体験 ③ウルトラライトプレーン、ウインドサーフィンの展示 ④カヌー、ヨットの展示、デモンストレーション ⑤ミニよし作り体験 ⑥ガイドクラブによる遊水地の見どころ案内 ⑦スタンプラリー ⑧渡良瀬遊水地及び栃木市PR  【予定】 ①公共交通手段による来場促進 ②SNSを活用したイベント周知 ③とちぎのふわふわゲームを設置 ④来場者とスタッフによる交流イベントの開催 ⑤キックバイクのタイムトライアルレースの開催 ⑥希少植物(おま)探しゲームの実施 ⑦お魚触れ合いコーナーの設置
事業費	3,885,502			3,885,502	4,000,000
市町支出金(ソフト事業分)	2,732,000			2,732,000	2,732,000
うち県交付金	1,350,000			1,350,000	
市町支出金(ハード事業分)	0			0	0
うち県交付金	0			0	
その他自主財源等	1,153,502	0	0	1,153,502	1,268,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部 遊水地課 環境保全ワイルドユース係
担当者名	今野 文裕
電話	0282-82-0919
連絡先 FAX	0282-82-0922
E-mail	wise-use@city.tochigi.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	栃木市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	渡良瀬遊水地フェスティバル誘客促進事業	
対象年度	1	年度

1 収入の部

科目	精算額	備考
栃木市負担金	2,732,000	市負担金
協賛金	746,120	企業協賛金 100,000円×3社=300,000円 50,000円×2社=100,000円 49,120円×1社=49,120円 30,000円×3社=90,000円 10,000円×18社=180,000円 出店団体協力金 3,000×9団体=27,000円
繰越金	405,330	前年度繰越金
雑収入	2,052	寄付金 2,042円 預金利子 10円
計	3,885,502	

2 支出の部

科目	精算額	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		市	町		
補助対象経費	2,741,717	2,732,000	1,350,000	9,717	
消耗品費	24,368	20,000	10,000	4,368	12Vハットライト購入費 9,600円 立て看板用消耗品代等 4,372円 ロープ、ガムテープ、混合油代 4,240円 スタンプラリー用サインスタンド代 4,104円 立降員用雨具、ホイッスル代 2,052円
備品購入費	40,609	40,000	20,000	609	排水用エンジンポンプ代 36,000円 ガンリン携帯缶代 4,609円
印刷製本費	225,375	225,000	100,000	375	事前配布用チラシ・ポスター製作費 212,512円 当日用チラシ・スタンプラリー用紙製作費 12,863円
通信運搬費	9,280	9,000	4,000	280	チラシ・ポスター等送付代 5,251円 本部用携帯電話代 3,615円 出店依頼送付代 414円
広告費	8,748	8,000	4,000	748	広報折込手数料 8,748円
手数料	5,724	5,000	0	724	振込手数料 5,724円
委託料	2,427,613	2,425,000	1,212,000	2,613	イベント会場設営委託料 2,195,262円 イベントバックボード、スタートサイン製作費 100,807円 会場内夜間警備委託料 92,664円 のぼり旗製作委託料 38,880円
補助対象外経費	1,143,785	0		1,143,785	
補償、補填及び賠償金	27,000	0		27,000	出店団体協力金返金 27,000円
食糧費	298	0		298	実行委員会用お茶代 298円
次年度繰越金	1,116,487	0		1,116,487	
計	3,885,502	2,732,000	1,350,000	1,153,502	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。  
 具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。  
 連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。  
 1 市町のみで事業を実施する場合  
 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単事業調書)  
【単事業】

市町名	栃木市
事業名	高校生社会参画促進事業
事業主体の名称	とちぎ高校生蔵部
代表者の名称	菅谷 悠樹
事業主体の所在	〒328-8686 栃木県栃木市万町9-25 栃木市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課内
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の目的: ボランティアやまちづくりに関心のある高校生が気軽に集い、同世代の仲間だけでなく大人とも語り合いながら、高校生の視点による自主的な活動を展開し、栃木市の賑わいの創出に寄与することを目的とする。</li> <li>・設立年月日: 平成26年4月1日</li> <li>・構成員等: 栃木市内に居住する高校生及び市内の高等学校に在学する高校生並びにとちぎ高校生蔵部の目的に賛同する高校生</li> </ul>
当該事業に係る地域の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の高等学校に通学する生徒が中心となり、「とちぎ高校生蔵部」を立ち上げ、まちなかでのイベントに参画している、栃木市中心部においても高齢化が進捗し、イベント等での担い手が不足していることから、高校生の視点による事業を展開し、中心市街地の活性化を図る必要がある。</li> <li>・「とちぎ高校生蔵部」の取り組みにより、高校生の地域づくり活動への関心が高まってきている一方で、地域のイベント等での担い手要請は後を絶たない状況である。そのようなことから、まずは高校生が街なかの魅力に触れる機会を創出し、イベントに参加した高校生が栃木市の魅力に触発され、将来の地域の担い手として活動してもらえ環境整備が必要である。</li> <li>・マップづくりや街歩きイベントを行うことで、高校生の栃木市の歴史や伝統工芸品等の認知度が低いことから、認知度を高める取り組みを行うことが必要である。</li> </ul>
事業目的	高校生の視点による栃木市の魅力発信と街なかの賑わい創出
事業概要	<p>【令和元年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①地元商店等の協力を得ながら、高校生がお勧めする「栃木の街散策マップvol.5(日本語版、英語版)」を作成し、栃木市の魅力を観光客(外国人来訪者含む)や市内に通学する高校生に発信した。</li> <li>作成部数: 6,000部(日本語版)、3,000部(英語版)</li> <li>②上記で制作したマップを活用した若者及び栃木市来訪者向けの街歩きイベントを開催する。</li> <li>※3月7日開催の「あそ難まつり」での開催を予定していたが、新型コロナウイルスにより「あそ難まつり」が中止</li> <li>③伝統工芸士の指導のもと、栃木市伝統文化体験事業をパーラートチギ等において開催した。</li> <li>(籌づくりWS)</li> <li>開催日: 令和2年2月2日(日) 開催場所: パーラートチギ 参加者: 17名</li> <li>(樽づくり見学&amp;味噌づくりWS)</li> <li>開催日: 令和2年3月25日(水) 開催場所: 萩原製樽&amp;味噌づくりWS&amp;パーラートチギ</li> <li>※新型コロナウイルスによる感染症対策のため、樽づくり見学&amp;味噌づくりWSは中止</li> </ul> <p>【令和元年度実施事業の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①マップづくりは、学割を実施する店舗数を増やす取り組みを併せて行い、マップを見た若者が栃木市に訪し、街なかの若者交流人口を増やす取り組み。</li> <li>②街歩きイベントは、高校生に限定して実施していたが、栃木市に関心ある大学生等を含めた若者に対しても実施する。</li> <li>③栃木市の伝統工芸品である「都賀の簪」や「栃木の樽」等の製造技術等を学び、伝統文化継承の必要性や伝統工芸品の新たな活用方法等について体験活動を通して発信する取り組み。</li> </ul> <p>【事業のPR方法】</p> <p>SNS (twitter, facebook) を活用し、市内外から通学する高校生及び大学生等をターゲットに情報発信を行い、栃木市への関心を高めてもらう。</p> <p>【翌年度以降の取組み】</p> <p>とちぎ高校生蔵部で活動するメンバーの加入促進に取組み、翌年度以降についても上記事業を拡充し、市外からの若者の来訪者及び市内に在住する若者のまちなか交流人口の新たな流れを構築する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」</p> <p>【具体的施策】交流人口の増加/観光資源の魅力向上と有効活用</p> <p>【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数 H28: 365万人 → H31: 380万人 【H30: 394万人】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位: 円)

	令和1年度	令和2年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①「栃木の街散策マップ」作成 ②「高校生イチオシ! 蔵の街魅力ツアー」開催 ③「栃木市伝統文化体験事業」開催	①「栃木の街散策マップ」作成 ②「高校生イチオシ! 蔵の街魅力ツアー」開催 ③「栃木市伝統文化体験事業」開催		①「栃木の街散策マップ」作成 ②「高校生イチオシ! 蔵の街魅力ツアー」開催 ③「栃木市伝統文化体験事業」開催
事業費	105,200	125,000	230,200	75,000
市町支出金 (ソフト事業分)	100,000	100,000	200,000	50,000
うち県交付金	50,000	50,000	100,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	
その他自主財源等	5,200	25,000	30,200	25,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	教育委員会事務局 生涯学習部 生涯学習課 青少年係
担当者名	藤野 法之
当者名	電話 0282-21-2489
連絡先	FAX 0282-21-2690
	E-mail sakusyuu05@city.tochigi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	栃木市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
-----	-----	------------------------

単位事業名	高校生社会参画促進事業
-------	-------------

対象年度	1	年度
------	---	----

1 収入の部

科目	精算額	備考
市町村支出金	100,000	
自主財源	5,200	とちぎ高校生蔵部イベント収益金(既存財源)
計	105,200	

2 支出の部

科目	精算額	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		市町支出額	県交付金		
報償費	47,000	42,000	21,000	5,000	栃木の街散策マップ制作デザイナー謝金 10,000円 栃木の街散策マップ翻訳謝金 5,000円 伝統工芸品(箸づくり等)作成指導謝金 17,000円 伝統文化体験事業コーディネーター謝金 15,000円
消耗品費	8,500	8,500	4,250	0	箸づくり用消耗品 8,500円
印刷製本費	44,700	44,500	22,250	200	栃木の街散策マップ印刷代 44,700円 ・6,000部×4.7円=28,200円(日本語版) ・3,000部×5.5円=16,500円(英語版)
使用料	5,000	5,000	2,500	0	パーラートチギ使用料 5,000円
				0	
				0	
				0	
				0	
				0	
計	105,200	100,000	50,000	5,200	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合